

別表第 2

日本学術会議会長 殿

課題別委員会設置提案書

日本学術会議が科学に関する重要課題、緊急的な対処を必要とする課題について審議する必要があるので、日本学術会議の運営に関する内規第 1 1 条第 1 項の規定に基づき、以下の課題別委員会の設置を提案します。

1	委員会名	科学者コミュニティと知の統合委員会
2	設置提案者	岸 輝雄、柘植綾夫、小林敏雄、後藤俊夫、矢川元基、土井美和子、中島尚正
3	設置期間	平成 1 8 年 3 月 2 3 日 から 平成 1 9 年 3 月 3 1 日まで
4	構成員数	1 5 名以内
5	設置の必要性及び審議事項	<p>(1) 委員会設置の必要性・期待される効果等</p> <p>ますます広域化かつ複雑化しつつある現代の諸課題を学術が解決するためには、細分化された知を統合して新しい知を生み出す理念とそのための仕組みとそれを実現する周到な戦略が必要である。学術の全分野を網羅する日本学術会議においてこのことを達成できる組織は存在しない。本委員会は、科学者コミュニティの立場からこの古くて新しい問題に正面から取り組み、学問論を通じて知の統合を政策課題として表現し、それを実現するための学会を軸とした科学者コミュニティにおける具体的な活動指針を提言する。</p> <p>(2) 審議事項</p> <p>本委員会の課題達成のためには、俯瞰的展望のもとでの長期的な検討が必要であり、従って少なくとも 3 年間の継続的な設置（委員会名、構成員は部分変更可能）が望まれる。最初の 1 年間は問題の所在を探りそれを具体的に摘出し、<b>政策課題として表現すること</b>を目標とする。具体的には、人間・社会の全体性と向き合う科学技術の緊急課題のなかで、知の統合がどのような形で要請されているかを探る。緊急に必要とされている具体的な課題（例えばリスク管理、シミュレーション、環境問題など）で、統合の契機が欠けている為に何が出来ないか、逆に統合によって何が生み出されなければならないか、を明らかにする。第三期科学技術基本計画の実施のなかで知の統合が果たすべき役割を明らかにし、それを果たすための戦略を提言する。</p> <p>2 年目は、政策課題を実現するための<b>学問的な基盤を確立する</b>。学術の全体構造の俯瞰的な認識に立って、知の統合の理念と方法を「学として」明らかにする。すでに第 1 8 期で提案され第 1 9 期で議論された「社会のための学術」と「設計科学」についてさらに議論を深め、両者の関係を科学論として明らかにする。</p> <p>3 年目は、学としての知の統合を政策的組織的に実現するための<b>科学者コミュニティの役割と活動の方針を明らかにし</b>、それを学協会に発信する。必要に応じて具体的な問題解決のプラットフォームを学術会議のプロジェクトとして具体的に作成する。その際、関連学会に参加をもとめ、広範なヒヤリングなどを通して知の統合のための基盤強化を目指す。</p>

設置提案者は、会長、副会長、部長、既存の委員長又は 5 名以上の会員